

令和6年度 第1回静岡市駿河区地域包括支援センター運営部会議事録

1 日 時

令和6年6月18日（火） 午前10時から12時まで

2 場 所

静岡市地域福祉共生センター 「みなくる」2階 第一会議室

3 出 席 者

（委員）古井委員、望月委員、稲垣委員、岩崎委員、下村委員、鈴木委員、田村委員、山田委員
（駿河区地域包括支援センター）7地域包括支援センター

4 事 務 局

駿河福祉事務所高齢介護課 高齢者福祉係
保健福祉長寿局 地域包括ケア・誰もが活躍推進本部 地域支え合い推進係

5 傍 聴 者

1人

6 意見交換及び情報交換（司会及び進行は古井部会長により実施）

- （1）各地域包括支援センターから令和6年度の事業計画について報告及び意見交換
別紙 各地域包括支援センター事業計画書参照
- （2）委員から質疑・助言等

<八幡山地域包括支援センター>

包括：

昨年度は、富士見地区で見守り体制や多世代が交流できるような関係づくりが必要であると地域住民と共有した。多世代交流を行うきっかけとして、幼稚園児や小学生等が参加するボランティア活動に、地域に住む高齢者や施設入所者が参加できるよう調整を行った。畑での収穫活動に、地域に住む高齢者や施設に入所している高齢者の方に参加していただいた。また、有明団地では、「自宅ですつと」を続けるために市民講座を年4回開催し、健康維持や介護予防の意識を高めるための啓発活動を行った。当該団地ではボランティア活動が活発に行われている。地域住民から居場所づくりの希望があったため、場所の選定・確保を行い、お試し開催として生活支援コーディネーターと協働し、森下地区の介護施設内で相談会を行った。

今年度の目標は、事業計画書の③④⑥⑦にある、地域資源による支援体制の継続と新たな地域資源の創出を支援すること、圏域内に居場所や相談場所を兼ねたフレイル予防の講座を実施することについて、重点的に取り組みたいと考えている。具体的には、取り組み内容③④⑥⑦の2つ目に挙げているように、地域での活動（S型デイや出張講座）で介護予防の意識づけが行えるように、理学療法士や薬剤師、栄養士等によるフレイル予防講座を実施する。その後は、地域住民主体で運営

できるよう支援をしていきたいと考えている。また、3つ目に挙げている富士見地区での居場所づくりのため、医療・福祉の専門職による個別相談会を年2回程度実施していく。

そして共通的基盤整備については、「自宅ですっと」を実践するための支援体制や役割づくりに向けて、高齢者に関わる機会を地域内で創出する（多世代で交流ができる場所等）ために、生活支援コーディネーターの協力を得て地域住民に働きかけていく。今年度、地域住民から防災訓練への協力依頼を受けているので、そこで防災を含めて交流ができるような支援（啓発活動）をしていきたいと思っている。

また、事業計画書に記載はないが、介護保険サービス事業者が使う駐車場がないことが地域の問題になっている。公営住宅を中心に駐車場を確保できるよう、自治会と協働して働きかけを行っている。地域にある企業で駐車スペースを提供してくれる所には、自治会から協力を依頼しており、包括もこの活動の後方支援を行っている。

稲垣委員：

富士見地区の居場所づくりについて具体的に教えてほしい。

包括：

居場所づくりと言っても、いきなり居場所はできないため、年2回程相談会を開催する所から始めていく。S型デイサービスで理学療法士が講演を行うと、参加者から色々な質問があるため、個別相談ができる場所を作り徐々に回数を増やすことで、居場所へと繋げる。まずはここに来れば介護保険・医療・理学療法等の相談ができるという場所を作ることから始めていく。市営有明団地での居場所づくりでは、月1回の交流の場を作り、5年程かけてだんだん広げていき常設の居場所ができたという実績があるため、時間をかけてやっていきたい。

稲垣委員：

富士見地区のどの辺で開設する予定なのか。

包括：

公民館を考えている。

古井部会長：

今のことに関連して、相談会から居場所になっていく具体的なプロセスを教えてほしい。

包括：

有明団地で居場所づくりを支援した際、包括職員や近隣のケアマネジャーが相談会を開き、日時を周知しつつ、自治会の支援で茶菓子等を用意したりエアコンが効いているという環境を用意し、相談がなくても来ても良いと伝えていくことで、それが今の居場所になった。そのような経験からあそこに行けば相談ができる、誰かがいるという場所をまずは作りたいと思っている。

望月委員：

S型デイサービスでアンケートを取ることが記載されているが、これは初めての試みか。

包括：

これまでは、あまり積極的にアンケートは取って来なかった。しかし、地域の困りごとを拾い上げるために、まずはS型デイサービスに来られる方（動ける方）からアンケートを取りたいと思い、今年度初めて計画した。

望月委員：

そこから地域資源を創出する根拠が出てくる（居場所づくり等）ので、大事なことだと思う。

岩崎委員：

居場所づくりのために行った相談会の繋げ方について、どう考えているのか。例えば、もし何かあったときの連絡先が、こういった相談会のアンケートから拾い上げられれば、それはとても良いことだと思う。相談会の時間は1時間や半日かもしれないが、そこで得られた情報が何かと繋がれば、行政とのあり方も良い方向に繋がると思う。

包括：

居場所ができ、雑談ができる環境があれば、生活状況や緊急連絡先等の情報を雑談の中から聞き取ることができる。強引に聞き取る方法じゃなく、会話の中から聴取し、記録として残しておければ良いと考えている。

古井部会長：

個人情報との共有はとても大切な所なので、また具体的な取り組みを報告してほしい。

<大谷久能地域包括支援センター>

包括：

大谷久能地区は、人口が9,300人、65歳以上の高齢者人口は2,800人と、小さな圏域である。それ故に、地域住民と顔が見える関係を作りやすい地域であり、平成18年以前の在宅支援センター時代から、代々の民生委員、自治会、地区社協と親密な連携が図れている。偶数月には、民児協、高齢介護課、南部保健福祉センター、生活支援コーディネーターと地域課題について検討する圏域ケア会議を開催し、課題に応じて圏域内の各種団体や多職種専門職を会議に加えることで、フットワークの良い地域づくりに繋がっている。

今年度も、「大谷久能高齢者のくらしみまもりたい」活動を基準とした、フレイル・認知症予防・専門職同士が連携した地域支援に重点を置いて取り組んでいく。自治会、民協、地区社協、生活支援コーディネーターとの連携を重視し、圏域内事業所の多職種を巻き込みながら地域課題を共有し、行政、専門職、地域のネットワークを通じて、地域の支え合い活動を推進していく。

まず、「みまもりたい」を継続するため、毎年変わる組長に「みまもりたい」の説明を行っている。高齢者世帯、認知症や障害のある息子がいる世帯等、住民同士で見守っているケースがたくさんある。「みまもりたい」が、ちょっとした困りごとを支援に繋げる土台となっている。大谷久能地区では、S型デイサービスや自主グループ活動に、介護認定を持っている認知症の高齢者も普通に通えるという特徴がある。さりげない見守りにより早期相談に繋がることが多いため、引き続き「みまもりたい」活動が途切れることのないよう、自治会や組長会、地域の集まりで説明や周知を行うと共に、過去に相談があった高齢者世帯や、現在は元気で過ごしている一般高齢者世帯を含め、圏域内に住む高齢者を定期的に巡回訪問し、介護予防や地域の支え合い活動の啓発、早期介入が行える体制を維持していく。民生委員は色々なことを知っているのも、すぐに包括に連絡してくれる体制ができている。

また、昨年度の地域づくり会議にて事前アンケートを行った。移動手段がないことや地域活動の担い手が少ないこと、住民同士の関わりがないこと、健康や介護のこと、災害時の避難等の課題について、地域活動を担う主要メンバーと高齢者分野の事業所、障害や児童といった他分野の事業所とも地域課題について共有した。あわせて、支え合い活動の担い手の固定化・高齢化に伴い、地域住民だけでなく、地域に関わる事業所とも協働する必要があることを共有した。事業所からも、地

域住民と繋がりを持ちたいという声が聞かれているため、今年度は地域住民と事業所の双方が、相互の立場や状況を共有する機会を設け、お互いを支え合える体制づくりへと繋げていきたいと考えている。地域活動や地域の事業所を知ること、地域住民が地域資源に気づくきっかけを作ることを目的として、地区社協や圏域の主任介護支援専門員、生活支援コーディネーターと協働し、地域マップ作成に向けて取り組む予定である。

フレイルや認知症予防については地域住民からの関心が高く、S型デイサービスや自主グループ活動を中心に、包括による講座の開催や専門職の派遣を通して、介護予防の啓発活動を継続して行っていく。

最後に、4月に静岡市より終活ノートの配布が新聞に掲載されたことで、終活支援についての相談が増えている。これまでは、もしもの時の介護や医療について考えることに消極的な声が多かったが、これを機会に終活やACPについても周知していきたいと考えている。小さな圏域で顔の見える関係であるという特徴を活かし、対象者の状況や様子に合わせて周知方法を工夫していきたいと思っている。持続可能な支え合い活動のある地域づくりを目標に活動を行う。

田村委員：

地域マップの作成について伺いたい。他地区にも色々なマップが存在しているが、そのマップが有効に活用できているのかについては疑問に思う。マップを作った後、どう活用していくのかについて知りたい。

包括：

運用、経費、マップの有効活用が課題であることは主要メンバーと共有している。地域資源はある程度把握できているため、どう運用していくのか、どう活用していくのか、どういう形態で地域に落としていくのかについて、7月・8月に検討したいと思う。

古井部会長：

昨年、圏域内に高齢者が非常に多いこと、また1人暮らし高齢者も多いという課題から、開業医に定期的に訪問しているとの報告があった。そこについて、今年度の取り組みを教えてほしい。

包括：

今年度、圏域内の開業医が閉院等で減っているため、1つの開業医に地域の患者が集中しているという状況である。それはある意味メリットであると捉えている。定期的な病院への訪問は続けており、包括よりも長年にわたり対象者を見てきている病院の受付の方や看護師から、支払いができていない等の状況を早めに連絡をいただけているので、引き続き続けていきたいと思っている。

古井部会長：

定期的に開業医を訪問し、また開業医からも何かあったら相談あるという関係が作られているということか。

包括：

そのとおり。対象者を訪問した後には必ず開業医に対しフィードバックをしている。またその際は直接、顔を合わせて報告をしている。

鈴木委員：

終活支援という点では、法律の専門職が関われる分野だと思う。法律専門職との連携も、今後行えると良いと思う。

包括：

先日の地域ケア会議では、市が認定した事業者に来ていただき、身元保証事業の説明をしてもらった。今のアドバイスをもとに、今後地域ケア会議への専門職の派遣について検討していきたい。

<長田地域包括支援センター>

包括：

地域ケア会議は今年度も継続して開催していきたいと思っている。令和5年度は、3つの小学校校区で1回ずつ開催したため、今年度は年2回の開催という事業計画を立てた。計画作成後、川原学区と長田東学区は、地域支援事業を立ち上げる際の助成金を受ける取り組みを行うことが決まった。助成金を受けるためには、年3回以上のネットワーク形成に係る会議の実施が要件としてあるため、川原学区と長田東学区は、参加メンバーが重複すること、地域住民の負担が大きいことを鑑み、3回のうちの1回を包括と共催で、ネットワーク会議を行うことにした。長田南学区は、9月と2月に包括主催でネットワーク会議を行いたいと思っている。民生委員、医師会の方々、地区社協、介護保険事業所、地域にある商店、警察、消防等、地域包括ケアシステムを担う機関に参加をいただき、地域の情報交換を行う予定である。昨年度も同様の取り組みを行い好評だったため、継続的に行う予定である。

そして、包括が作成した広報誌にも載せているが、令和4年度から「good at プロジェクト」を行っている。これは、地域住民の方々に自分の得意を活かして、地域に還元していただく事業であり、昨年度は7回程開催した。今年度は少し趣向を変えてみることを計画している。自分の得意を活かして地域に還元していくというベースは変えず、そこに専門職の方々から力を貸していただくと考えている。大谷久能包括でも報告があったACPや相続、成年後見制度、ペットのを含めた終活、オムツ交換の仕方等の具体的な介護方法等の講座を取り入れながら、6回シリーズで講演を計画中である。広報誌にも記載のある「おさだつぶ」は長田の地域をアップするという意味を込めて「長田アップ」から命名している。広報誌の発行は今年度が初めての試みである。来月も発行し、各地域にある区民会館への配架等で広報をしていきたいと思っている。

最後に、共通的基盤整備として、防災をテーマに挙げている。今年始めには能登半島地震があったが、長田地区も用宗等の沿岸地域があり、防災に関して心配の声が上がっている。長田南学区のネットワーク会議で防災を取り上げて、地域住民と検討ができれば良いと思っている。

望月委員：

個人的に「good at プロジェクト」はいつも期待をして報告を聞いている。昨年度の名刺作りからステップアップして、講演等を交えて行っていくということで今年度も期待をしている。

また、事業計画書の3-1に記載がある「介護支援専門員同士の意見交換」について、3年計画で行うとのことだが、具体的にどのようなことを考えているか教えてほしい。

包括：

昨年度、3年計画の大枠を決め、令和5年度は東京都立大学の先生を講師に呼び、相談援助面接の講義を行った。今年度は、県内で活躍する相談支援従事者に講師に来ていただき、相談支援に関する講習を考えている。丸子包括と共催で行い、具体的な内容（講師や講義の依頼内容等）はこれから検討していく。その際、地域のケアマネジャーから実行委員を募り事業を進めていく。現在、実行委員を募集中であり、年度末（2月くらい）を目途に研修会を行う予定である。

望月委員：

包括では多方面の相談にのっているので、講師等呼び、スキルアップを図ることはすごく大事だと思う。

包括：

事業計画の7-1に記載のある「ファイブコグ」について、昨年度は丸子包括と共催で行い、80名程の参加があり、地域住民から継続の声があった。今年度、丸子包括は別の企画で行うことになったので、長田包括は昨年度と同様に地域住民に向けて募集を行う。定期的（年1回くらい）にスクリーニングや効果測定を行う組み立てになっているため、継続して行えるよう計画にしている。

古井部会長：

事業計画書の1-2に記載のある地域ケア会議について、各学区で2回行くと、非常に明確に取り組み内容が掲げられている。昨年度も地域ケア会議がポイントになっていたと感じているので、引き続き支援をお願いしたい。

< 丸子地域包括支援センター >

包括：

事業計画書の①にある総合相談支援事業について、昨年度駿河区はモデル地区となって重層的支援体制整備事業に取り組んできたが、今年度からは静岡市全体で力を入れていくため、包括でもそういった視点を持って相談対応を行えるよう、職員で情報共有を行っている。また、毎朝のミーティングで、支援困難事例や、長く支援を行っている事例に関しては、事例検討の機会を設け、適宜ケアマネジャーや行政に相談をしながら対応をしている。今年度も引き続き、総合相談には力を入れていこうと思っている。また、ケアマネジャーが1人しかいない事業所もいくつかある。丸子圏域は、居宅介護支援事業所が8つしかないため、包括職員が訪問し事業所で抱えている悩みや困り事を吸い上げて包括内で共有しながら、居宅介護支援事業所同士の連携が取りやすいような働きかけを今年度は考えている。居宅介護支援事業所への訪問は年2回を予定しており、現在1回目の訪問が終わったため、居宅介護支援事業所からの意見を集計している。

次に丸子包括の特徴として、保健師・看護師の人数が多いことが挙げられる。静岡市の健診データから血圧が高い、糖尿病が多いという結果があるため、保健福祉センターとも協力させていただき、地域住民に働きかけていきたいと考えている。

そして、先程長田包括から報告があった「ファイブコグ」について、長田西学区ではチームオレンジが発足している。認知症の理解をより深めていただけるよう、「ファイブコグ」から認知症サポーターへ繋げていけるよう考えている。長田北学区でも、チームオレンジの立ち上げに繋げていければ良いと考えている。

最後に共通基盤整備について、丸子包括で新しいチラシを作り、関係機関に配布することで再度顔の見える関係づくりを行っていく。

岩崎委員：

チラシは誰を対象としているのか。また、チラシを配布することでどのような効果を見込んでいるのかを教えてください。

包括：

チラシの対象者は高齢者である。各機関に配布する際、気になる高齢者がいたら、その方に渡し

もらうよう依頼をしている。丸子包括の地図や連絡先が大きく書かれているため、各機関から包括に繋げていただくことで、包括が介入し対応できるような効果を見込んでいる。

岩崎委員：

配布場所は、郵便局や銀行等の公共の機関以外は考えていないのか。

包括：

薬局等、圏域内でご協力いただける機関に依頼する。コンビニは対応が難しいと言われるケースも多いが、高齢者がよく利用する機関にチラシを置かせてもらうよう働きかけている。

岩崎委員：

交流館やスーパーでの配布は難しいのか。

包括：

スーパーにも声をかけているが、難しいとの返答も多い。

古井部会長：

居宅介護支援事業所への訪問等、ケアマネジャーへの支援をすごく丁寧に行っている。事業計画書の②にある権利擁護事業について、権利擁護の勉強会を行う旨の記載があるがこれは主任ケアマネジャー等から要望があったのか。

包括：

昨年度、長田包括と合同で権利擁護に関する勉強会を行った際にアンケートを取った。そこにケアマネジャーから虐待以外の研修について要望があり、長田包括と共にどのような勉強会にするのかを話し合っている。成年後見制度をテーマにすることが案として挙がっている。

古井部会長：

居宅介護支援事業所への訪問等を通して、課題が集計されていると思う。その結果も踏まえて、次回の報告を楽しみにしている。

<大里高松地域包括支援センター>

包括：

まず、事業計画書の①総合相談支援事業について、複合的な課題に対応するために、圏域地域ケア会議を大里東宮竹地区で9月に予定している。民生委員、介護支援専門員、障害関係の方と意見交換を行う予定である。これを行う理由として、圏域の状況の3つ目に記載があるとおり、認知症、精神疾患、身寄りがいない、経済的困窮、家庭内の不和等の課題が複合的に発生している事例が多く、なかなか解決に至らないということが地域ケア個別会議や事例検討会を行う中で課題として積み上げられてきているため、高齢者分野や障害分野、子ども分野の関係者で事例を基に話し合いを行うことを計画した。高齢者と障害を持つ方が元気に暮らしている間は問題ないが、高齢者に認知症が見られたり、介護が必要になったりした時に、障害のある子どもが上手に介護をできない等で困ってしまうケースが大変多く見られるため、地域ケア会議として関係機関で話し合いを行う。

次に、事業計画書の③包括的・継続的ケアマネジメント支援事業について、大里高松圏域では主任介護支援専門員連絡会を継続して行っており、昨年度は八幡山包括とも合同で行った。先程八幡山包括からも報告があったとおり、介護保険サービス事業者が使う駐車場の検討をしたり、対象者宅から近いS型デイサービスやサロン等の情報がまとまっている資源マップを作っている。今年度も八幡山包括と合同で行うことを予定しており、先日主任介護支援専門員と打ち合わせを行った。

まず第1回目は、介護支援専門員が日頃から感じているヤングケアラーへの支援をテーマに講座を行うよう、主任介護支援専門員と一緒に企画をしている。主任介護支援専門員が自主的に活動し、互いに勉強し合えるよう後方支援をしていきたいと思っているが、どうしても包括主導になりがちである。昨年まで薬局と協働し、認知症地域支援推進員が相談を行っていたため、今年度はその場をアウトリーチによる相談会の他、主任介護支援専門員や介護支援専門員、専門職の方が集まって話ができるような場所にも活用できるよう考えている。8月からの偶数月で4回は場所を借りているので、主任介護支援専門員と共に活用方法を検討していきたい。

3つ目に事業計画書の⑦認知症総合支援事業について、昨年度は南部図書館や圏域内の通信制高校、児童クラブ等から認知症サポーター養成講座の依頼があり包括で対応している。今年も南部図書館から新任職員向けに引き続き認知症サポーター養成講座をやってほしいとの依頼があり、来週に行う予定である。あらゆる世代への啓発に関しては、毎年恒例の地域の中田まつりに参加したり、福祉フェアや登呂まつり等の場を活用し、小学生の父母や、もう少し上の世代にも広げて啓発していきたいと思っている。認知症の相談は多く、認知症の初期の段階で相談に来る方は、本人も家族もすごく戸惑っていたり、苦勞されていることが多い。そこで今後の見通し等を提案すると、そんな方法もあるんですね、お話できてよかったです、という声を多くいただくので、地域のイベントを通して伝えていきたいと思っている。また、認知症と診断されると銀行の口座が凍結される等の誤った情報から受診を躊躇う家族もいたため、正しい情報をPRする必要性を感じている。

最後に、配布した資料について少し説明する。まず1つ目は、年度別に総合相談件数等をまとめて民生委員や地域住民に配っているものを抜粋して今回、表裏印刷で配布している。町内別で相談件数を載せている。2番目の便りは、S型デイサービスやサロンで配っている。3番目の通信は、民児協で民生委員あてに渡している。地区ごとに相談件数や特徴がわかるようにまとめている。

望月委員：

事業計画書の④にある自立支援プラン型地域ケア個別会議について、専門職あてに見学者を募集しているが、それは今後アドバイザーになってもらうための取り組みなのか。また、どのような専門職に来てもらいたいという希望はあるのか。

包括：

明日、1回目の自立支援プラン型地域ケア個別会議を開催する。今後アドバイザーになっていただけの方を対象に見学をしていただいております、今回は歯科衛生士、薬剤師、主任支援介護専門員が見学する。

望月委員：

まずは見学から、というすごく良い取り組みだと思った。

古井部会長：

事業計画書の⑤にある地域の医療系専門職と介護系専門職の研修について、具体的な狙いや参加メンバー、課題等、現時点での計画を教えてください。

包括：

昨年度、地域の理学療法士や作業療法士、介護支援専門員が自主的に集まって活動をしていた。そのような活動をもう少し広めていきたいと思っている。

＜小鹿豊田地域包括支援センター＞

包括：

当圏域は、西豊田・東豊田・東源台の3学区からなり、土地も広く、人口も多い学区である。高齢化率は比較的低い23%台である。東静岡駅近辺は高層マンションが建ち、茶畑があった池田の辺りには新築が建ち、戦後住宅地になった地域では高齢者が多く住んでいる。色々な方が混在している圏域だと思う。認知症、一人暮らし等の問題が出てきていることから、今年度の目標を定めた。

1つ目は包括の認知度を上げることである。昨年度もPRを行ったが、まだまだ知らない方もいる。問題が起きてから包括を知るような状況が多いため、今年度も引き続きチラシを年2回作り、全学区で回覧を依頼している。2回目の配布時には関係機関にも配り、全体を網羅できるよう考えている。

2番目はフレイル予防についてである。地域住民が元気に過ごせるよう、健康器具を使った出前講座を考えている。S型デイサービスやマンションから講座の依頼をいただいております、包括のPRを含めて出前講座を行っている。

3つ目に住民の見守り体制づくりについてである。昨年度の後半に、曲金にある高齢者が多く住むマンションに向けてアンケートを取った結果、見守り体制を構築していくための支援を行っている。マンションの住民は個人情報大切にすることが多いため、見守り体制を作りにくいことがわかった。マンションの上の階に交流スペースがあるため、そこを活用した支援を社協と協力しながら検討している。各学区、地区社協がすごく熱心な地域である。西豊みまもり隊や、池田地区でも活発な活動を行っており、東源台もこれから力を入れていく所である。そのような活動のバックアップを行いつつ、健康麻雀が最近流行っているため、そのような場にも顔を出しながら協力をしていきたいと思っている。

最後に、住み慣れた地域での安心した生活を送れるよう、3年前から人生会議をテーマとして、「自宅でずっとミーティング」を行っている。入門編、基礎編と行い、今年は応用編という形で、市で作成したエンディングノートを活用しながら、学びを深めて話し合いを行っていききたい。

望月委員：

認知症初期集中支援チームについては、3年前に意見交換を行った。その後の活用状況はどうか。包括：

事業計画書の⑦認知症総合支援事業にある通り、認知症サポーターの養成、しずメールの周知、認知症初期集中支援チームの活用を挙げている。なかなか活用には至っていないが、1事例について利用を検討している。認知症が進行して困っているケースは多々あるが、制度に乗れないという事実があるので、そこが上手く連鎖できるよう今年度は考えていきたい。

望月委員：

認知症により支援が困難なケースはたくさんあるが、なかなか事業を活用する件数が増えないという点が課題だった。今ある制度を上手く使うということも技術だと思うので、色々と活用してほしい。

古井部会長：

事業計画書の④介護予防ケアマネジメント事業に、3学区ごとに民生委員とケアマネジャーの交流会を年3回開催する旨記載がある。これは何かきっかけがあるのか、またどのような狙いで行うのか。

包括：

きっかけは、昨年度に圏域のケアマネジャー向けに民生委員の仕事をテーマに勉強会を開催した際、ケアマネジャーから各地域の民生委員とざっくばらんな交流会をしたいという要望を受け、それに応えた形である。3学区共に民児協の後に行う予定である。ざっくばらんにという希望があったため、細かなテーマは決めず、ケアマネジャーと民生委員が互いに連携したいことという大きなテーマで行う。今月28日に第1回を開催する予定である。包括としては、包括が間に入らなくてもケアマネジャーと民生委員が直接連絡を取り合えるような体制を作りたいと思っている。

古井部会長：

稲垣委員、民生委員の立場で何か意見はあるか。

稲垣委員：

すごく良いことだと思う。この交流会は、これから役立つことがあると思う。

<大里中島地域包括支援センター>

包括：

当包括は、大里西学区と中島学区の2つの区を担当している。西側が安倍川で東側が丸子を、国道1号線から海の方に向けて縦2つに分かれているような形である。大里西学区は、高齢化率は中島学区に比べて低い、中島学区より高齢化率が上がるスピードが速い。中島学区は、海が近く農家が多い所で、元々高齢化率は高かったが上がり幅は横ばいである。

今年度の重点目標として、まず、認知症サポーター養成講座を挙げている。昨年度、初めて児童を対象に児童クラブで認知症サポーター養成講座を行った際、とても新鮮な効果を感じた。多様性の受け止め方について、児童はあまり認知症に対する偏見を持っていないので、スッと話が入っていくように見え、非常に好感触を得た。今年度も児童を対象に認知症サポーター養成講座を行わせてもらえるよう調整している。

次に、事業計画書の⑦認知症総合支援事業について、昨年度はグループホームやかけこまち等との連携にあまり取り組めなかったため、今年度は力を入れていく。大里中島包括はエン・フレンテという建物の中にあり、エン・フレンテで認知症カフェを開いている。グループホームの方々に認知症カフェや、主任ケアマネの会に参加していただき、認知症の知識を披露してもらえるよう話を進めている。

更に事業計画書の③包括的・継続的ケアマネジメント支援事業や、⑤在宅医療・介護連携推進事業について、圏域内の居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員に主として集まっていただき、年に数回、勉強会や交流会を開いている。昨年度、地域の専門職種の方々（主に自立支援プラン型地域ケア個別会議に出席していただいた理学療法士や薬剤師等）と連携し、その会に参加していただいた。その中で、ケアマネジャーが専門職種の方々に期待するものと、熱意ある専門職種の方々がケアマネジャーに提供したいと感じているものの間に差異があることが分かり、すり合わせが必要になった。そのため、早速5月にケアマネジャーたちと包括でじっくり話し合いを行った所、ケアマネジャーが抱えている問題や負担が明らかになった。ケアマネジャーは、研修等でも多職種との交流を盛んに求められているが、多職種と交流することがどのように役に立つのか、専門職種の方々がケアマネジャーに話してくれる内容と自分たちが知りたい内容は違う、というケアマネジャーが抱えている本音を聞くことができた。また、昨年度はケアマネジャーに地域貢献活動として民

児協やS型デイサービスに参加していただいたが、昨今のケアマネジャー不足と業務の多さから、負担が大きいとの声も聞かれた。そういった中で、今年度どのように活動をしていくのか相談した所、ケアマネジャーの方々が協力してくださり、自分たちがやりたい勉強会をやると、手を挙げてくれた。既に3回の勉強会の日程が決まり、それぞれ居宅介護支援事業所が主催で行うことになっている。ただそのような中でも、個人的に普段の業務の中で理学療法士に連絡した、薬剤師から助言いただいたという意見も、個人差はあるがケアマネジャーから聞かれたため、着実に多職種の連携ネットワークは育っていると少しホッとした所がある。

最後に、昨年度あたりから事業者（ケアマネジャーを含む）と利用者の関係性について相談があり、クレーム対応等の勉強会を開催してもらえないかという声が上がっている。包括としても普段の業務の中で、クレーム対応に悩む場面が非常に増えてきたと感じること、どのような勉強会を開いたら良いのかということについて検討していく。

古井部会長：

ケアマネジャーからの声を集約し、具体的な取り組みに繋げていることがわかる。

様々な場面でグループホームに呼びかけをしているが、グループホームとの関わりを強化することの狙いは何か。

包括：

圏域内にグループホームが6か所あり、包括は運営会議に多く招待される。そこには民生委員の方々も参加していることが多く、民生委員から包括とグループホームが連携してはどうかという助言をいただいた。そういった民生委員からの声もあり、グループホームの方々も協力してくださっている。

古井部会長：

運営会議という公式な場だけでなく、グループホームと地域のかかわりという点について民生委員からの声があったということですね。

<全体を通して委員からの感想>

田村委員：

先日、テレビでもMC Iへの支援がすごく大事であると伝えられていた。高齢化が進む中、認知症の方を増やさないためにMC Iへのケアが必要になってくると思うが、各包括ではどのように考えているのか。また、市全体ではどのように考えているのかをお聞きしたい。

古井部会長：

軽度認知症の方への対応について、各包括で何か考えがあれば挙手をお願いしたい。

長田包括：

昨年度行った「ファイブコグ」は、軽度認知障害のスクリーニング検査である。参加者からは、早めに認知症の傾向に気づき予防できるならしたい、どうしたら予防できるのか、検査の結果を見て少し安心した、という声を沢山いただいたため、この事業は継続的に行っていきたい。

また、昨年度の運営部会で視覚や聴覚に障害がある方への対応についてご意見をいただいた。この検査は集団でも個別でも行えるが、集団での検査は視覚や聴覚に障害がある方には適さないため、希望があれば個別でも対応させていただきたい。

古井部会長：

大里高松包括から、認知症の診断があった後、軽度認知症のある本人やその家族への対応について何かあるか。

大里高松包括：

軽度認知症の時に、活用できる社会資源（出かける場所や予防プログラム等）があると良いなと感じている。かけこまち七間町にはゲーム感覚で脳の検査等ができるタブレットがある。他市町では、包括にそのようなタブレットがあり、包括職員が地域に出かけていく時に活用できるという所もある。静岡市では予算的な課題から難しいとは思いますが、市内に包括が 29 か所あるので、もう少し MC I という部分で包括が活用できるような、市の体制や事業があると良いと思う。また、看護師等の医療職とも連携できると良いなと感じている。

現状は、MC I の相談があると、S 型デイサービスやサロン、カフェや運動特化型サービス等、どこか出かけることで刺激を受けられるように提案をしている。

田村委員：

この点に関して、市ではどのように考えているのか。

地域包括ケア・誰もが活躍推進本部：

静岡市では、MC I の予防プログラム（頭の体操と運動を組み合わせた DVD）を作成している。昨年度から希望した S 型デイサービスに対して、試験的にリハビリテーション専門職の方にもご指導いただきながら、DVD を活用してもらっている。今年度も引き続き、希望のある S 型デイサービスの会場に出向く予定である。頭の体操や運動、遊びリテーションのようなちょっと頭を使うゲームのヒット集を冊子で配っているのも、各 S 型デイサービス等で手軽に予防をできる場が増えていくことを期待している。

古井部会長：

本日の意見を踏まえて、今後の計画に検討できる場面があればお願いしたい。

7 情報交換 【テーマ】ひとり暮らし等高齢者の“親族への連絡”について

古井部会長：

ひとり暮らし高齢者の親族への連絡についてということをやテーマにした。一人暮らしの方が本当に多くなってきている。一人暮らしのみならず二人以上いるが親族との連絡が取りにくい方も少なくない。

認知症の進行や突然の救急搬送等、親族と連絡を取らなければならないこともある。包括として、日頃どのような取り組みをされているのか、情報交換をしていきたい。少し具体例を交えながら各包括から話をしていただきたい。

<八幡山地域包括支援センター>

最近あったケースは、認知症の方で連絡先が全くわからない、個人のメモがあってもよくわからない方だったが、民生委員が古くから付き合いがあったため親族の方の連絡先を把握しており、連絡がついた。また別件では新聞や弁当が溜まっていることから交番に相談に行った所、交番で連絡先が確認できた。包括は連絡先の把握まで行きつかない場合も多い。地域の民生委員がすごく頼り

になる。

<大谷久能地域包括支援センター>

大谷久能圏域は地域柄、民生委員や自治会長が個人情報把握していることが多い。そのため連絡先で困ることはあまりない。あるとしたら、例えば郵便物、はがきや封筒から身内の連絡先を探す。

<長田地域包括支援センター>

情報を得る手がかりみたいな所は他の包括とほとんど変わらない。認知症で本人が全くわからなくなっているような状態の時には、本人の許可を得て電話の近くにある電話帳を見たり、携帯電話の連絡先を見たりする。親族に連絡すると、積年の恨みを言われてしまう場合や、反対に心配していたと言われる場合もあり、家族、親族との付き合い方によってそれぞれ反応が違うなど思っている。

利害関係がよくわからない知人が関わっているケースもある。これまでに本人と関係がなかったため宗教関係かお金が絡んでいるのではないかと推測するも、本人にお金がない方なのでお金でもない、宗教でもない、本当にスーパーマンみたいな人がたまにおり、利益もなく手伝ってくれる方もいるので、すごいと思う。

<丸子地域包括支援センター>

今までの包括と一緒に、民生委員から連絡先を伺うことがある。こちらから連絡するというよりは、そのご家族の方に包括の連絡先をお伝えさせていただいて、ご家族の方から包括に連絡してもらっている。どうしても連絡先がわからない時、本当にお1人なのか、周りの方も民生委員もわからない場合には、行政に相談させてもらっている。

<大里高松地域包括支援センター>

手がかりは他包括と同様である。年に数回は亡くなっている状態で発見することがある。まずは民生委員に連絡先を知っているのかを聞き、民生委員にも伝えていない方については行政で把握しているのか相談をする。行政で緊急連絡先の把握があれば、まずは行政から相手方に一報を入れてもらい、その後包括で対応を引き継ぐ。電話が繋がらなければ、手紙を出して支援を依頼することもある。

また、自宅訪問が可能な方であれば、訪問時のアセスメント時に年賀状等の手紙類を確認したり、本人から親族との関係を聞いてみたりする。そういったことを試みても本人と関わっている方がわからない場合は、カレンダーに記載がある電気屋や新聞屋を確認する等、本人と繋がりがある方のヒントを得ていく。また、本人や近隣住民との何気ない会話の中にヒントがある可能性もあるので、普段は使わないかもしれない情報でも何かあった時役に立つ可能性があるため記録に残している。

以前対応したケースで、その方は認知症がある一人暮らしだった。昔の仕事仲間が本人を気にかけてくれていたが、だんだんと負担が大きくなり、本人の親族に連絡を取る必要が出てきた。本人に親族について聞いても、長い間連絡を取っていないため連絡先はわからず、民生委員も親族の名前はわかるが連絡先はわからなかったため、高齢介護課に相談した。高齢介護課で緊急連絡先を把

握していたため、高齢介護課から親族、親族から包括に連絡をもらったことがあった。

<小鹿豊田地域包括支援センター>

まず、総合相談の受付履歴を令和3年分から一覧表で見られるようになっているため、そこで過去の相談歴を確認する。次に、介護保険の利用があればケアマネジャーに繋げ、情報を収集する。それでも情報がない時には民生委員や高齢介護課、生活支援課等に相談する。加えて、介護保険サービス事業所や受診歴から通院している病院等がわかれば、確認する場合もある。

また、交番の方が調査に来た時に立ち会ったことがあり、身内の連絡先や介護保険の利用状況等を細かく確認していたため、個人情報ではあるが協力していただければ良いと思う。訪問時に本人から聴取できる場合は、携帯電話や固定電話の電話帳や、本人が見える所に誰かの連絡先を貼ってあることが多いので、本人の許可を取りながら情報を得ていく。

話が逸れるが、ひとり暮らしの方が救急車を呼んだ際、S救セットを持っている方だったため開けてみると何も書いていなかった。日頃は近所の方や民生委員に、私は大丈夫と言う方だったため、日常生活に支障がない方こそ緊急時に備えて記載があると良いと思う。

<大里中島地域包括支援センター>

日頃から苦労しているテーマである。年の多い方ならガラケーや電話帳、メモ等から緊急連絡先を拾えるが、もう少し若い世代はスマートフォンになるため、ロックがかかっており確認できず、メモも書いてもいないため、どう情報を得ていくのかが課題であると最近実感している。交番から連絡先を尋ねられることも多いため、総合相談の中で子どもがいない、頼れる方がいないという相談者には、最初のコンタクトの時点で緊急連絡先を聞くよう包括内で共有している。初期相談の段階で情報を聞き取り記録に残しておけば、いつか役に立つと思う。これは全国的な問題だと思う。包括が救急要請をすることもあるが、緊急時の連絡先がわからず1日中情報収集にあてることもあり、結構大変だと思っている。

古井部会長：

各包括から具体的な話をいただいた所で、委員から感想等はあるか。

地区社協としての立場から、山田委員から感想やひとり暮らし高齢者との関わりという点で、何か意見はあるか。

山田委員：

民生委員が行っている高齢者実態調査は、多くの情報が入っているため利用できるのではないか。

古井部会長：

実態調査でも情報が得られない場合、地区社協等に関わることはあるか。

山田委員：

地域にある居場所やS型デイサービス、介護予防の場等を通じて交流したり、見守りを通して話し相手になる中で情報を得る。また安否確認のために1ヶ月に何回か電話をしてもらえないかという要望があるため、検討していきたいと思っている。

古井部会長：

見守り活動の際に何かあった時は、誰に連絡したら良いのかという包括が抱えている課題と同じ

課題が生じると思うので、また取り組み内容を教えていただきたい。

では、民生委員の立場で稲垣委員からどうか。

稲垣委員：

民生委員は安否確認と介護疲れを抱えている人に気を遣っている。安否確認の際、長い間留守で連絡が取れず、緊急連絡先が分からない場合がある。そのような時は行政や包括に助けていただいている。

古井部会長：

亡くなったり、入院したりといった万が一の時の連絡先が、わかっている方とわかっていない方それぞれの対応について、本当に苦労が多いという話があった。これは駿河区だけの課題ではないと思われるため、今回各包括から提供していただいた情報や意見を参考にしながら、市全体の課題として取り上げてもらえれば良いと感じた。

全体を通して下村委員から何かあるか。

下村委員：

歯科医師会として包括と関係がある事業は、訪問歯科が挙げられる。年間 500 件程、訪問歯科の実績がある。歯科の治療歴等があれば相談に応じられる可能性があるため、問い合わせさせていただきたい。

古井部会長：

これで、本日の意見交換と情報交換は終了とする。今後とも包括での取り組みを聞かせたいと思うので、引き続き対応をお願いしたい。